令和四年十一月

漢詩鑑賞

　　宿石邑山中　　　　　　　にす

浮雲不共此山齊　　ものとしからず

山靄蒼蒼望轉迷　　として　　たう

曉月暫飛千樹裏　　くぶ　の

秋河隔在數峰西　　はててり　の

【通釈】

起句　浮き雲も此の山の峰々ほどの高さはなく、（峰の中腹に漂い）

承句　は青々と深く山を包み、辺りはぼんやりとして見定めがつかない。

転句　見あげると明け方の月が生い茂る木々の中を一瞬飛ぶように動き、

結句　天の川が峰々を隔てた西の空に懸かつている。

【語釈】

　石邑…今の中国河北省西陘県の古名。太行山脈の険阻な山々が連なる地方。

　共…ここでは與と同じ比較の助詞に用う。

　齊…等しい。同じ。

　蒼蒼…深い青さをたたえた形容。

　轉…うたた。　いよいよ。　ますます。、

　曉月…　明け方の月。

　秋河…の夜の天の川。

【押韻】

　平声　斉韻。齊、　迷、　西、

【解説】

　韓　翃　は中唐の詩人。南陽（河南省）の人。字は君平。天宝十三年（七　五四）の進士。官途に就いた後、一時辞任して十年間浪人生活を送った。

　後、徳宗に認められ中書舎人に到った。詩人としては銭起らとともに暦十才子の一人に数えられる。

　この詩は恐らくは作者が石邑の山中の仏寺か道観（道教の寺）に宿泊して作ったものであろう。秋の山中払暁の清冽な観望を詠じた佳作で、転結の対句の冴えが美事です。　　　　　　　　　　　　　　　　　　以上